

みずくらいど

校長 加藤雅弘

公共施設（公園）をきれいにする！

足立区の未来は自分たちの手で！

今回お届けするのは、私が3年2組で社会科の授業を行ったときの子供たちの姿です。学習指導要領の改訂で「足立区の移り変わり」という単元が新設されました。3年生が自分の住む区（市町村）が学習内容となっています。国から支給される教科書をそのまま使うことができません。多くの区は独自に副読本を作成し、それを活用して授業を進めています。私は足立区社会科の担当校長として、副読本の全面刷新を行いました。「移り変わり」の単元は新設ということもあり、実際に授業を行いながら、よりよい活用方法についても検討し、今後区内で授業する教員に向けての情報提供も併せて行いました。

最後に「足立区の未来について考える」という内容があり、人口が減少していくことを知った上で、将来どうあってほしいのかを考える学習をしました。この単元では、公共施設（学校、図書館等）は、人口増加とともに増えてきて、皿沼小もその時期に開校していることを、周年行事と関連付けながら改めて理解しました。また、公共施設は税金で建てられていることを知り、人口が減っていくと税収も減少し、それによって公共施設はどうなるのか、子供たちの中に新たな問いが生まれました。友達と意見交換する中で「自分たちで公共施設（公園）をきれいにしよう」という考えを、その日の放課後から実践する子供たちがいました。驚いたことに、その日だけでなく、月曜日と水曜日に定期的に続けています。

その時点で2週間も続いているので一体どのような活動をしているのか、次の月曜日に皿沼公園に行ってみました。その日はたまたま中止になったとのことでした。話を聞いてみると、7名の子供たちが参加しています。ゴミ袋も持参して落ち葉などを集めて持ち帰っているそうです。将来税収も減少する中、公共施設を新しく作ったり、整備したりすることができなくなるだろうと考えて「今、自分たちでできることをしよう」という行動につながったと思います。一方、ある子供は、「病院をつくったり老人ホームをつくったりするという人を選挙で投票しようと思う」と、大人になってからの行動を表明していました。授業では、今できることと大人になってできることをそれぞれ考えてもらいました。どちらの言動にも、足立区の一員としての自覚や誇りを感じます。

「学びお金」をキャッチフレーズに、学んだことを使うことの重要性をお伝えしてまいりました。今回の姿は、まさしく「学びを実生活に生かしている」と言えます。このように、自分で考え、判断し、行動している姿は頼もしい限りです。今後も、足立区の未来に関心をもつとともに、18才以降は、誰に投票するのが足立区にとってよりよい選択になるのか熟慮して投票してくれることでしょう。